



東京発_CCBT が都市を舞台にクリエイティブで社会実験に挑む

Co-Creative Transformation of Tokyo

クリエイティブ x テクノロジーで
東京をより良い都市（まち）に変える

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が共催する創造拠点、シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] は、2023年6月29日（木）に、「**Co-Creative Transformation of Tokyo (CX) ～クリエイティブ×テクノロジーで東京をより良い都市に変える～**」を掲げ、東京を舞台にクリエイティブな社会実験に挑むことを発表しました。

CCBTのクリエイティブディレクター 小川秀明 は、DXにCXを接合させ、CCBTがトランスフォーメーションのエンジンとなり人間とは何か？社会とは何か？を問いかけながら**東京の都市課題と最先端の創造性を衝突させ、Art for Society**の視点からプログラムを展開すると表明しました。

国内最大のインキュベーションプログラム

CXの象徴的なプログラムの1つである「アート・インキュベーション」プログラムでは、2023年度はAI、Web3、音楽表現・パフォーマンスアーツ、ダイバーシティ&インクルージョン、市民参画プロジェクトの5つのテーマで公募を行い、100組を超える熱意あるクリエイターからエントリーがありました。本プログラムは、各テーマ**上限1,000万円の制作費を支援するなど、国内最大規模のインキュベーションプログラム**です。7月中旬には、アーティスト・フェロー5組を決定。アートが持つ表現力・対話力によって、まだ言葉が与えられていない東京の未来課題を顕在化していきます。

未来思考のリテラシーを身につける

さらに、この拠点の名称に冠している「シビック・クリエイティブ」を醸成するために、誰もがアクセスできるプログラムを展開していきます。不安定で不確実な時代において、AIや気候変動など予測不可能な課題に対し、未来思考のリテラシーを身につけていくプログラムを提供していきます。このプログラムを通じた「気づき」を「参加」そして「アクション」へと繋げ、社会を変容させていきます。

2023年6月29日（木）実施 CCBT のシビック・クリエイティブ戦略発表より

プレス用オフィシャル画像をご希望の方は、下記 URL よりダウンロードください。また、当日の動画も同 URL 内のリンクより後日配信予定です。URL : bit.ly/442wPka



CCBT クリエイティブディレクター 小川秀明による記者懇談会



「Tokyo, Laboratory of the Futures」をコンセプトに、東京に社会実験を引き起こす拠点が CCBT です。東京という都市を捉え直し、街を未来の実験区として、複数形の「Futures」を探ります。シビック・クリエイティビティとは、言い換えれば未来思考です。予測不能な未来を創造的に描くため、市民や世界中のクリエイター、企業が集まり、東京の新しい風景を共に考えていきます。

シンポジウム「東京をもっとクリエイティブに、もっと良くするには？」

<ゲストスピーカー> 宮坂学、内田まほろ、市原えつこ

<モデレーター> 小川秀明

宮坂学（東京都副知事／CCBT スーパーバイザー）



テクノロジーは生活を便利にするものですが、デザインは生活を豊かにし、アートは心を豊かにするものだと思います。テクノロジーとクリエイティビティがつながることで、都市は潤いを手に入れます。DX と CX を近づけ、行政にもアートやデザインの考え方を取り入れる必要があります。同時に「東京に参加できる人」をどう増やすかは常に考えていきたいテーマです。

内田まほろ（一般財団法人 JR 東日本文化創造財団 TAKANAWA GATEWAY CITY 文化創造棟準備室室長）



自分の関わる TAKANAWA GATEWAY CITY は「100年先の心豊かなくらしのための実験場」がコンセプトです。鉄道の始まりの場であった高輪から、未来へ文化をつなぐ、日本らしい伝統を更新する場所を目指しています。東京だけでなく、日本や世界をどうフィジカルに超えていくか。未来だけでなくどれだけ過去を参照できるか。時間と空間をどれだけ広げられるかが未来を考えることにつながります。

市原えつこ（アーティスト、妄想インベーター）



これまで日本の民間信仰とデジタルテクノロジーを融合させ、コミュニティ横断型の作品を手掛けてきました。アートには「未来への予防接種」の役割があると思っています。全く予測できない未来への耐性をつける存在として、アートがあるのではないのでしょうか。東京は日本のなかでもクリエイティブが発達している街です。だからこそ、もっとより良い東京にしていくための問いが必要なのではないでしょうか。1000年後の公務員はどうなっているのかな？

今後のCCBT情報

2023年度「アート・インキュベーション」プログラムアーティスト・フェロー5組の発表（7月中旬）

<https://ccbt.rekibun.or.jp/core-programs/art-incubation>

**メディアアーティスト/絵本作家 岩井俊雄ディレクション「メディアアート・スタディーズ 2023：眼と遊ぶ」
（7月7日-8月20日）**

メディアアート史を革新した岩井俊雄の代表作「時間層」シリーズを約25年ぶりに公開。

19世紀の視覚装置を体験する。メディアアート作品を再生する。映像を自分でつくってみる。

岩井俊雄が総合ディレクションを手掛ける、映像の仕組みと原理を体験し、発見し、つくるためのプレイグラウンド。

<https://ccbt.rekibun.or.jp/events/playingwithyoureyes>

CCBTについて <https://ccbt.rekibun.or.jp/>

2022年10月に渋谷に誕生した、アートとデジタルテクノロジーを通じて、人々の創造性を社会に発揮する（シビック・クリエイティブ）ための活動拠点。東京からイノベーションを生み出す原動力となることを目指している。

小川秀明について

2007年からオーストリア・リンツ市を拠点に活動。アートとテクノロジーの世界的文化機関として知られるアルスエレクトロニカにて、アーティスト、キュレーター、リサーチャーとして活躍。現在は、同機関の研究開発部門であるアルスエレクトロニカ・フューチャーラボの共同代表を務める。アートを触媒に、未来をプロトタイプするイノベーションプロジェクトや、市民参加型コミュニティの創造、次世代の文化・教育プログラムの実践など、領域横断型の国際プロジェクトを数多く手掛けている。

アルスエレクトロニカ (Ars Electronica)

- ・オーストリアのリンツ市が創設した、アートと先端テクノロジーのクリエイティブ拠点。
- ・世界最大規模のメディアアートのフェスティバル「アルスエレクトロニカ・フェスティバル」を40年以上にわたり、毎年開催。
- ・企業、行政、文化・教育・研究機関などと共同で、アートや技術の未来を研究する「フューチャーラボ」も設置。
- ・この他、未来の美術館、未来の学校として知られる「アルスエレクトロニカ・センター」と、世界で最も長い歴史を持つメディアアートの国際コンペティション「プリ・アルスエレクトロニカ」などで構成。

シンポジウム参加者プロフィール

宮坂学（東京都副知事／CCBTスーパーバイザー）

1997年ヤフー株式会社入社、2012年同社代表取締役社長、2018年同社取締役会長を歴任。ヤフー退社後の2019年7月東京都参与に就任、同年9月に副知事に就任し、CIOとして都政のデジタル化を推進中。2023年9月に事業をスタートする「GovTech東京」の代表理事に就任予定。

また、東京を世界で最もスタートアップフレンドリーな都市にするための戦略にも取り組み、2024年5月に開催予定のグローバルスタートアップイベントの実行委員長を務める。

内田まほろ（一般財団法人 JR 東日本文化創造財団 TAKANAWA GATEWAY CITY 文化創造棟準備室室長）

2025年大阪・関西万博 テーマ事業シグネチャーパビリオン「いのちの未来」企画統括。

知と美が融合する公共の場づくりを目指し、JR東日本で文化施設の立ち上げに参画する傍ら、国内外のミュージアムにてアドバイザー、コミッショナー等を務める。

2002年～2020年日本科学未来館勤務。科学とアートやデザインを融合した、数多くの企画展、常設展の開発に従事。Barbican Center ゲストキュレーター、グッドデザイン賞審査委員等。

市原えつこ（アーティスト、妄想インベーター）

1988年、愛知県生まれ。早稲田大学文化構想学部表象メディア論系卒業。東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻在学中。日本的な文化・習慣・信仰を独自の観点で読み解き、テクノロジーを用いて新しい切り口を示す作品を制作する。

第20回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門優秀賞を受賞、2016年度総務省「異能vation」採択。2018年にアルスエレクトロニカ Interactive Art+部門でHonorary Mention受賞、同年「STARTS PRIZE」にも同時ノミネート。

本件に関する広報窓口：CCBT クリエイティブディレクター記者懇談会及びシンポジウム PR 事務局
株式会社ハウ MAIL. event@how-pr.co.jp TEL. 03-5414-6405 FAX. 03-5414-6406